

平成15年度事務事業評価表

担当	教育委員会	博物館	内線等	8013
事業コード		事務事業名	企画展等開催事業	
根拠法令等		A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
豊かな心と創造性を育むまちづくり	文化

②事務事業の内容

対象（受益者）	一般市民に
手 段	常設展とは異なる、テーマをもたせた資料観覧の機会を提供することにより
想定する成果	歴史、民俗、美術などの文化的価値を認識してもらい、地方文化の発展に寄与する。

③事業の概要

項 目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
企画展開催回数	3回	3回	3回
企画展延入場者数	14,048人	21,371人	—

④成果指標

	①	②
成果指標名	企画展1日あたりの入場者数	1 企画展あたりの必要経費
成果指標の説明	企画展延入場者数／企画展開催日数	企画展延事業費／企画展回数

⑤事業の進捗状況（一般会計）（千円）

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標	計画	—	—	—
	実績	147人	229人	—
成果指標	計画	—	—	3,538
	実績	2,512	2,289	—
事業費	事業費	926	1,187	4,768
	人件費	6,610	5,681	5,847
	(人数)	0.8	0.7	0.7
	合計	7,536	6,868	10,615
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	7,536	6,868	10,615

⑥事務事業内容の評価

項 目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達 成 度	2	2	一部には、大規模な博物館・美術館の企画展と比較して物足りないという意見もあるが、本市の身の丈にあった展示がなされていると考える。
経済効率性	2	2	地域に密着したテーマを心がけ、予算をかけなくても市民に親しんでもらう企画展を心がけている。
事務効率性	2	2	展示を委託業務化することなく、学芸員のみで行っている。学芸員の資質向上にも役立っている。
必 要 性	3	3	博物館における教育・普及活動の大きな柱となっている。
小 計	9 /12 満点中	9 /12 満点中	
市民参加度	2	2	ここ数年では、「蒲郡の道」など、郷土になじみの深いテーマに関心が集まっている。また、「懐かしい生活道具」などでは、展示をとおして新たな資料提供の情報が寄せられるなど、市民との交流も深まりつつある。
合 計	11 /15 満点中	11 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	企画展は、博物館活動の根幹をなすものである。その意味では、最低限の市民サービスは図られていると考える。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

ディスプレイ・看板作成等はすべて職員の手作業で行い、経費の節減を図っている。また、市外からの資料借用をなるべく避け、蒲郡にゆかりの深いテーマにこだわりながら、市民提供の資料を有効活用し、市民に喜んでもらえるような展示を心がけている。

⑧今後改善すべき点

郷土に密着した展示だけでは限りがあるので、節目には、比較的大きな展示を企画し、そういった声にも応えていきたい。平成16年度には、市制50周年記念事業として「愛知県移動美術館」を招致する。

⑨平成17年度予算に反映する項目

⑩組織、人員に関する提言

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成15年度事務事業評価表

担当	教育委員会	博物館	内線等	8013
事業コード		事務事業名	文化財保護事業	
根拠法令等	文化財保護法、県、市文化財保護条例、規則	A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
豊かな心と創造性を育むまちづくり	文化

②事務事業の内容

対象（受益者）	市内に遺された文化財を、市民共通の財産として
手 段	保存及び活用のため必要な施策を講じ
想定する成果	市民の文化的向上に資する。

③事業の概要

項 目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
新規指定件数	0件	0件	0件
史跡等整備事業	1件（継続） 9,685千円	0件	0件
保存補助事業	11件 1,400千円	10件 726千円	5件 3,119千円
調査事業	1件 22千円	1件 687千円	1件 1,000千円

④成果指標

成果指標名	① 指定文化財1件当りに要した経費	② 指定文化財件数
成果指標の説明	文化財保護事業に要した経費／全指定文化財件数	国指定6件 県指定7件 市指定105件

⑤事業の進捗状況 （一般会計） （千円）

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	123
	実績	187	94	—
成果指標 ②	計画	—	—	118件
	実績	118件	118件	—
事業費	事業費	13,005	3,787	7,075
	人件費	9,089	7,305	7,517
	(人数)	1.1	0.9	0.9
	合計	22,094	11,092	14,592
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	22,094	11,092	14,592

⑥事務事業内容の評価

項 目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達 成 度	2	2	文化財保護の何をもって達成というべきか、難しいところであるが、後世に伝えるべき文化財は指定し、保存事業の対象としている。
経済効率性	1	1	文化財保存事業補助金が、「三谷祭」に突出している傾向があり、他の文化財所有者にも制度の周知を一層図る必要がある。
事務効率性	2	2	文化財審議会の意見を尊重しながら事務を進める必要があり、審議会への的確な情報提供を心がけている。
必 要 性	3	3	文化財は市民にとってかけがえのない財産であり、これを保護することは、本市の文化行政において欠くことができないものである。
小 計	8 /12 満点中	8 /12 満点中	
市民参加度	2	2	市民の理解を得るには、保護事業ばかりではなく、今後は公開・活用等の普及事業も力を入れる必要がある。特に、説明板・案内板については市民の要求も強いので、前向きに取り組みたい。
合 計	10 /15 満点中	10 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	文化財保護は、その自治体の持つ文化的土壌（先進性）のバロメーターとされる。その意味では、決して進んでいるとはいえないが、最低限、文化財がもつ現在の姿を失わずにそのまま後世に伝える努力はしている。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

「三谷祭」に対する補助金について、昭和62年と平成11年に補助対象基準を地元を示して理解を求めている。また平成12年には、指定文化財所有者・管理者すべてに、修復等について補助金制度がある旨の通知を行い、不公平な取り扱いがなされないよう留意している。

⑧今後改善すべき点

文化財の新規指定は、歴史的資料性や保存に対する緊急度等を勘案して、郷土芸能への視野も広げながら、文化財審議会の意見を考慮しつつ検討していきたい。また、近年では「私権」や「財産権」の尊重も配慮しなければならない時代となっており、現在指定している史跡等について、土地所有者等に理解を求める方策も研究していきたい。文化財保護の必要性は誰しも認めるところであるが、今後その方法については、審議会・所有者・市民など幅広い意見を聞きつつ対応していかなければならない。

⑨平成17年度予算に反映する項目

文化財説明板の継続設置について、予算要望する。

⑩組織、人員に関する提言

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載